

桐生市第六次総合計画後期基本計画に係る若者からの意見聴取について

桐生市第六次総合計画後期基本計画を策定するにあたり、下記のとおり若者からの意見聴取を行いました。

記

1 目的

桐生市第六次総合計画後期基本計画の策定にあたり、市外への転出が顕著である若い世代を対象に、本市が「ずっと住み続けたいまち」及び「選ばれるまち」となるための意見聴取を行い、参考にするとともに、本意見聴取の場を通じて、若者にまちづくりを自分事として考えてもらうきっかけを創出する。

2 学校訪問による高校生意見交換会の実施

桐生市立桐生商業高等学校及び群馬県立桐生高等学校を訪問し、高校生との意見交換会を実施いたしました。

- | | | | | |
|----------|------|--------------------------------|---------|--------|
| (1) 開催日時 | 商業高校 | 5月18日(木) | 午後4時 | ～5時10分 |
| | 桐生高校 | 5月30日(木) | 午後3時10分 | ～4時 |
| (2) 参加者 | 商業高校 | 2年生4人・3年生4人 計8人
(男性3人・女性5人) | | |
| | 桐生高校 | 3年生9人(男性6人・女性3人) | | |

(3) 意見交換会で出された意見（主なもの）

【質問1】桐生市のよいところは（強みは）何ですか

- ・思いやる人が多く住みやすい。
- ・食べ物（ひもかわ、ソースカツ丼、焼きまんじゅうなど）がおいしい。
- ・山、川など自然が豊かである。市街地からすぐ山に行ける。
- ・新川公園など子どもが遊ぶところが多い。
- ・遊園地と動物園が近くにあり、子どもをもつ家庭にとって住みやすい。
- ・ものづくりの技術など伝統が大切にされている。
- ・伝統工芸品や歴史的建造物などが沢山ある。
- ・商店街がシャッター街ではなく、飲食店など色々なお店がある（前橋市や伊勢崎市は閑散としている）。
- ・老舗が多くある中、流行を取り入れた商品を出しているお店がある。
- ・高校生と共同で商品を開発するなど、地域を活性化させるための取り組みがよい。
- ・商店街にあるアーケードがよい。
- ・桐生まつりや道路を使ったイベントなどがよいと思う。
- ・市内に多くの高校（商業、工業など）があり、幅広い進路が選べる。
- ・学校や幼稚園の数が多く、少人数の中で先生の目が行き届いている。
- ・小学校の校庭や保育園の園庭が広い。

- ・公共交通手段が多い。前橋市や栃木県宇都宮市など東西方面の移動が便利。
- ・公園や遊園地など、身近に憩いの場が多くある（みどり市は近くにない）。
- ・陸上競技場の利用料が安く手軽に運動することができる。

【質問2】もう少しこうだったらよいなと思うところは（弱みは）何ですか

- ・シャッター街にもっとお店ができるといい。
- ・小さい子どもが遊ぶ場所は多くあるが、高校生など若者が遊ぶ場所が少ない（大型ショッピングモール、映画館などの娯楽施設）。
- ・交通の便が悪い（電車の便数が少ない。おりひめバスの乗り継ぎが悪い、東京方面に行くのが不便）
- ・桐生大橋などが渋滞するので交通網が改善されるとよい。
- ・国道 50 号しか大きな道がないので、車で移動するには少し不便である。
- ・桐生が岡公園に行く交通手段がない。
- ・チェーン店が少ない。個人経営のお店もいいが、チェーン店は価格が安い醍醐味がある。
- ・人を呼び込めるものが沢山あるのに、PRが足りていない。
- ・ポスターで色々なことを宣伝しても、目に入らないことがあるのでPRを頑張った方がいい。
- ・桐生駅北口側に飲食店が少ない。
- ・電車を待っている間に勉強をする場所もない。
- ・桐生駅前の塾に通っているが、近くにコンビニがない。
- ・高崎駅はビルが沢山建っていて華やかだが、そういった視覚的な面では華がないように感じる。
- ・商店街に新しいお店ができてはすぐに閉店してしまう。
- ・伝統工芸品（桐生織）などは若者ウケが難しいと感じる。

【質問3】桐生市が「ずっと住み続けたいまち」、「市外の人から選ばれるまち」になるためにはどうすればよいですか

- ・若い人の遊び場がないのでショッピングモールをつくるのもいいが、風情ある伝統の町並みがなくなってしまう。大人世代も住みやすいよう両立した地域で、全世代が住みやすいまちづくりが必要だと思う。
- ・シャッター街にもう少しお店が入ることで雇用が生まれ、住みたいと思うようになるのではないかな。
- ・お店によっては路地裏にあり場所がわかりにくい。SNSを活用するなど宣伝の仕方を工夫することが大切だと思う。
- ・東京への交通の便が悪いこともあり、東京を遠い所だと感じ、憧れを持っている人が多いと感じる。しかし、東京へ行くのに「りょうもう号」を使うことが多いが、料金が高いため特急券の補助などを行って東京への心理的距離を短くできるといいと思う。
- ・自分の子どもが生まれたときに、安心して住めるまちなら住みたい。桐生市の人達は車の運転が荒い気がするので、しっかり取り締まるなどして、歩行者と

自転車に優しいまちになれば安心して住めると思う。

- ・商店街のシャッターの落書きが怖いので、全て消した上でアートなどを描いて映えスポットなどにすれば、観光客も来るし子どもたちも安心して暮らせると思う。
- ・有名なインスタグラマーやユーチューバーなどに桐生市のPRをお願いしたらどうか。
- ・本町通りなどはあまり空き家がないと思うが、少し道を外れると人が住んでいるのかいないのか分からないような家が沢山ある。空き家の場合は、まとめて綺麗な家に建て替えて人を呼び込むことをすれば、少しずつ人が増えていくのではないかと。
- ・空き家バンクの物件は古い家が多くて住む気になれないので、空き家をリノベーションした上でバンクに登録するというのもいいのではないかと考えた。
- ・東京など都会ではないとできないことが沢山あり、群馬県から出て行くのは避けられないので、出て行った人が戻ってきたくなくなるような取組が必要なのではないかと。

3 若者ワークショップの開催

桐生市が「ずっと住み続けたいくなるまち」、「市外の人から選ばれるまち」になるためにはどうすればよいかをテーマに、3グループに分かれ検討してもらい、その結果を発表してもらいました。

- (1) 開催日時 6月11日(日) 午前9時30分～3時
- (2) 参加者 19歳から33歳までの14人(男性10人・女性4人)
- (3) ワークショップで出された意見(主なもの)

【質問1】桐生市のよいところは(強みは)何ですか

○自然

- ・自然環境がよい
- ・川が流れている
- ・水がおいしい・きれい
- ・星がきれい
- ・梅田湖
- ・まちと自然が近くにある
- ・まちなかに花が多い
- ・吾妻山

○景観・歴史

- ・歴史的な街並みが多い(重伝建地区、天満宮)
- ・伝統・文化が受け継がれている
- ・寺社仏閣が多い
- ・のこぎり屋根

- ・TVや映画の撮影地になっている
- ・坂口安吾
- 住環境
 - ・静かである
 - ・ゆったりしている
 - ・(のんびりできる) 公園が多い
 - ・銭湯がオープン
 - ・治安がよい
 - ・災害が少ない
 - ・家を建てる土地がある
 - ・家賃が安い
 - ・いい意味で閉塞感がある
- 観光・イベント
 - ・桐生八木節まつり
 - ・えびす講
 - ・週末にイベントが開催されている
 - ・カリビアンビーチ
 - ・わたらせ渓谷鐵道
 - ・キャンプ場
 - ・黒保根のレジャー施設 (道の駅、水沼温泉)
 - ・大川美術館
 - ・桐生映画祭
- 店・商店街
 - ・個人店が多い
 - ・ユニーク・魅力的なお店が多い
 - ・若者が頑張っている店が多い
 - ・チェーン店と個人店のバランスがよい
 - ・24時間営業のファミリーレストランがある
 - ・ユニークな工務店がある
- 食
 - ・名物がたくさんある (ひもかわ、ソースかつ丼など)
 - ・おいしいお店が多い
 - ・物価が安い
 - ・黒保根の野菜がおいしい
- 子育て
 - ・無料の動物園・遊園地がある
 - ・キノピーランドがある
 - ・子育て支援センターが充実
 - ・保育園の保育方針が多様である

○教育

- ・大学がある
- ・高校が多い
- ・小中学校のイベントが多い

○交通

- ・東京へのアクセスがよい（1時間40分で行ける）
- ・4鉄道走っている
- ・駅が多くある（桐生駅、新桐生駅）
- ・スローモビリティを掲げた活動や団体が多い
- ・MAYUがある
- ・おりひめバスが走っている

○医療

- ・まちの中心に大きな病院がある

○仕事

- ・ものづくりが根付いている
- ・高齢者に関わる仕事につきやすい

○人

- ・人があたたかい
- ・世話焼きが多い
- ・年配の人の繋がりが強い
- ・若い移住者の開業が多い
- ・市外出身の人が意外と多い
- ・まちの結束力がある
- ・食べ物にこだわりがある

【質問2】もう少しこうだったらよいなと思うところは（弱みは）何ですか

○自然

- ・高低差が大きい
- ・寒暖差が激しい
- ・海がない

○住環境

- ・空き家が多い
- ・夜道が暗い
- ・公園が少ない
- ・有害鳥獣や虫が多い
- ・土地が高い

○観光・イベント

- ・レンタサイクルがわかりづらい
- ・観光が弱い（知られていない）
- ・博物館がない
- ・イルミネーションがない

○遊び

- ・遊び場が少ない（映画館、ゲームセンター）

○店・商店街

- ・夜遅くまでやっている店が少ない
- ・ショッピングモールがない
- ・人が集まるカフェがない（スターバックスコーヒーがない）
- ・駅前にお店が少ない（桐生駅、新桐生駅）
- ・シャッター街になっている
- ・大型ホームセンターがない
- ・本屋が少ない
- ・流行の物を買える店が少ない
- ・商店街に無料の駐車場がない
- ・コンビニエンスストアまで遠い
- ・家賃が高い
- ・できたお店がすぐにつぶれてしまう

○子育て

- ・子育て世帯への支援が不足している
- ・子育て情報がわかりづらい

○教育

- ・学生の勉強スペースが少ない

○交通

- ・公共交通の便が悪い（乗継、本数）
- ・車がないと不便
- ・自転車が走りづらい
- ・各交通機関の接続が悪い
- ・徒歩で歩きづらい
- ・歩道が狭い
- ・路上駐車がが多い
- ・東京へのアクセスに時間がかかる
- ・電車賃が高い
- ・高速バスが少ない
- ・タクシーが少ない
- ・道路が整備されていないところがある
- ・道路が暗い
- ・信号が多い
- ・橋を渡らなければならない
- ・「ゆっくりズム」の中身がMAYUだけでは弱い

○仕事

- ・大きい企業が少ない
- ・働く場所が少ない・業種が限られている

○情報発信・PR

- ・情報発信が下手である（町の歴史、店、イベント等）
- ・住んでいる人自体が何もないまちだと思っている

○人

- ・若者(大学生)が文化やコミュニティに触れる機会が少ない
- ・議員に若い人や女性が少ない
- ・人との距離が近すぎる
- ・飽きっぽい人が多い

【質問3】桐生市が「ずっと住み続けたいなるまち」、「市外の人から選ばれるまち」になるためにはどうすればよいですか

○空き家を活用したリノベーション住宅を推進

- ・35歳以下を対象とした空き家リノベーション補助を創設する
- ・全国のリモートワークを推奨する会社と連携し桐生の住宅を斡旋する

○桐生市の魅力をPRする

- ・既存のレジャー施設をSNSによりアピールする

○桐生市の新しい魅力づくり

- ・継続的に桐生を訪れてくれるファン的心を掴むまちづくりのため「こだわりのあるまち桐生」を目指す

○桐生市に実家がある人、桐生市に住んでいる大学生、祭りや観光で桐生市に遊びにきてくれる人など、桐生を住む場所として選択する可能性のある人を繋ぎとめる。

- ・桐生にきてくれた若者に文化や人と触れ合う機会を創出する
- ・祭りに絡めて文化や自然など桐生のよさを伝えるツアーを実施する
- ・学生のインターンや地域活性化に繋がる活動に補助を出す
- ・群馬大学内に地域の人やイベントと繋げる仲介所をつくる

○市内、市外への交通アクセスをよくする。

- ・東京圏へのアクセスをよくする（夜行バスなど）
- ・レンタサイクルを充実させる
- ・おりひめバスやMAYUをオンデマンド化する
- ・各交通手段の状況やカバーエリアが一目でわかるサイトを構築する

○桐生で既に完成しているもののブランド化

- ・既にある商品やお店を「桐生」の名前を付すなどブランド化させてPRする

○今桐生にないものを誘致

- ・例えば、スターバックスコーヒーなど今ないものを誘致し、桐生市の景観に合ったかたちで店を構え、桐生の食材を使ってもらう

○桐生祭りにあわせてフェスを開催

- ・多くの人を訪れる桐生まつりにあわせ桐生出身のアーティストによる音楽イベントを開催する。

- 桐生でテレワークなど出勤しなくても子育てをしている人を応援するまち
 - ・相生町や新里町に子育て支援センターを設置し、テレワークスペースなどを併設する
- MAYUを活用した交通の利便性向上
 - ・「すくすくキノピー」で予約できるようにする
- LINE アプリや「すくすくキノピー」を活用したPRを実施

以 上